

小作人の子女は、その工場に於ける勞働者の任務を引受けてゐるのである。嘗ての俵屋新田に於ても、その新町の附近は申す迄もなく、俵屋、一里山、國市場の村落に於ても工場が設立されてゐる。そこに營まれる、新しき生活が舊來の傳統を如何に改變して行くかは今後の問題であらう。

追記、資料の借覽を許され、種々の古傳に付き御教示下さつた日根野村長菊政治氏及川村與兵衛氏に深謝する。尙この程度の不完全な記述にも數回の實地踏査を必要としたが、それは東照宮三百年祭記念會の助成によつて行ひ得たものである。

## 北海道膽振國山越郡。ボンセイヨウベツ

### 及び夏路の瀨棚統貝化石に就いて

大炊御門經輝

北海道南西部の新生代層に就いて最近長尾巧

博士、佐々保雄學士の詳細な御研究に依り、同

地方の瀨棚統(上部鮮新世)には多數の貝化石が

含まれてゐることが明かになつた。筆者は去年

の夏山越郡八雲町に在る徳川農場に遊び、其の間附近に産する化石を採集したので此處に其の

概略を述べたいと思ふ。

八雲町は噴火灣に臨み、函館から鐵路八一・一

料、急行で約二時間の處にある。餘談であるが

八雲町は明治十一年舊尾張藩主徳川慶勝侯が北

海道開拓と士族授産の爲に開拓使から此の土地に官有原野地の下附を受け舊藩士中より志望者

を移住させ、家を與へ又土地からの收穫で生計が立つまでは生活に要する一際の商品を供給した。斯て夏は濃霧の襲來をうけ、冬は降雪に悩まされる北海道でも可なり氣候に恵まれない此の土地で移住民及び指導者は涙ぐましい程の努力をして、何度かの失敗にもめげず、失敗の經驗を基として再び立ち、七轉八起して遂に昔はアイヌの一小部落に過ぎなかつたユウラップが今日では燕麥、早熟性の大小豆、玉蜀黍を主産とし、特に馬鈴薯と畜産で名高い入雲町となるに至つた。

入雲町の北を流れて噴火灣に注ぐ遊樂部川<sup>ユウラップ</sup>の上流鉛川(入雲町の西方約四軒)から大關農場に至る約四軒の間には此の附近を標式地とする入雲統(上部中新世)の頁岩の露出が續いて居る。入雲統には貝化石が乏しく、僅に遊樂部川の支流ペンケルペシベ川の上流で頁岩中の團塊から *Thyasira bisecta* (Conrad) 及び *Dentalium* sp. の破片を得たのに過ぎなかつた。

大關農場の西方約二軒のボンセイヨウベツ及び其の北方約二軒の夏路には各々一貝化石層があり長尾博士、佐々學士に依り夏路貝砂層と名付けられた。此の瀬棚統の貝化石層の化石は *Pectinidae* の貝を主とし、個體數は非常に多いが種類は極めて少ない。化石層は白色の浮石を多量に含有し、特に可なり多量の砂鐵を含んで居て、貝殻に密着して居る。瀬棚統の時代的考察、對比等は既に前述の兩氏に依り詳細にされて居るので、次に化石の記述をするのに止める。

*Pododesmus* (*Monia*) *macrochisma*

(Deshayes)

1889. *Anomia macrochisma* Deshayes, Rev. Zool. Soc. Conventieme, P. 359.)
1930. *Placunanomia macrochisma*, Yokoyama, Jour. Fac. Sci., Imp. Univ. Tokyo, Sec. 2, Vol. 2, No. 10, pl. 77, f. 5.
1931. *Pododesmus* (*Monia*) *macrochismus*, 黒田, 本間, 信濃中部地質誌, 第4篇, p. 40, pl. 3, f. 16, pl. 4, f. 18.
1932. *Pododesmus* (*Monia*) *macrochisma*, Kuroda, Venus.

Vol. 3, No. 4, App., p. 121.

1934. *Pododemus* (*Monia*) *macrochismus*, 木下, 諫早, 北海道貝類目録, p. 13, pl. 9, f. 66.

現生種は北太平洋に北海道、千島、樺太から北米西海岸に亘り廣く知られて居る。

産地 ホンセイヨウミン、夏路。

*Chlamys erythrocomata* (Dall)

1907. *Pecten* (*Chlamys*) *erythrocomatus* Dall, *Smiths. Misc. Coll.*, Vol. 50, p. 170.

1931. *Chlamys erythrocomata*, Kuroda, *Venus*, Vol. 2, No. 5, p. 261.

1931. *Chlamys erythrocomata*, Kuroda, *Venus*, Vol. 3, No. 1, App., p. 86.

1934. *Chlamys erythrocomata*, 木下, 諫早, 北海道産貝類目録, p. 14, pl. 11, f. 75.

本屬の模式種 *Pecten islandicus müller* に酷

似して居るが、次の諸點で該種と區別出来る。

*islandicus* より圓みを帯び、且つよく脹れ、前耳は小さく、端は *islandicus* よりも更に垂直的に切斷狀を呈する。絞縁は短く、後耳は小さく、彈帶窩は狭い、模式種の放射肋の頂は平らで滑

かなのに對し細かい刺狀を呈し、鱗片は比較的粗く、放射肋は所々束の如くに隆起する。

現生種の分布はカムチャッカ、千島、樺太等である。

産地 ホンセイヨウミン、夏路。

*Chlamys swiftii* (Bernardi)

1858. *Pecten swiftii* Bernardi, *Jour. de Conchyl.*, Vol. 7, p. 90, pl. 1, 2.

1920. *Pecten swiftii*, Yokoyama, *Jour. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo*, Vol. 39, Art. 6, p. 154, pl. 14, f. 11.

1926. *Pecten swiftii*, Yokoyama, *Jour. Fac. Sci. Imp. Univ. Tokyo*, Vol. 1, Part 8, p. 303, pl. 37, f. 5, 6.

1931. *Pecten* (*Pallium*) *swiftii*, Grant & Gale, *Mem. San Diego Soc. Nat. Hist.*, Vol. 1, p. 171, pl. 10, f. 1a, 1b, 2, 4a, 4b, 5.

1931. *Chlamys swiftii*, Kuroda, *Venus*, Vol. 3, No. 1, App., p. 86.

1934. *Chlamys swiftii*, 木下, 諫早, 北海道産貝類目録, p. 14, pl. 10, f. 74.

前述の *C. erythrocomata* (Dall) が本種に關係を有することは既に黒田徳米氏も認められて居

るが、本種と近縁關係を有するものとして *Pecten turpiculus* Yokoyama, *P. cosibensis* Yok., *P. heteroglyptus* Yok. が有名。Grant, Gale の兩氏は *P. cosibensis* Yok. を *Chlamys swiftii etchegoini*(Anderson)と *P. heteroglyptus* Yok. を *Chlamys swiftii nuttteri*(Arnold)に併合して居るが其の當否は未だ置かず、以上の種類の中 *P. heteroglyptus* Yok. は最も *C. erythrocomata* (Dall)に近似し、是等の三種は *C. swiftii* (Bernardi) へ *C. erythrocomata* (Dall) への中間型をなし、互に連續して居る。 *C. swiftii* と *C. erythrocomata* の現生種は北日本から知られて居るのに對して、中間型のものゝは絶滅したか、或は現生種の調査の不充分な爲か化石にだけしか知られて居なう。

産地 ポンセイヨウハツ、夏路。

*Chlamys farreii akazara* Kuroda

1932. *Chlamys farreii akazara* Kuroda, *Venus* Vol. 3,

No. 2, App., p. 92, f. 105.

1934. *Chlamys farreii akazara*, 水F, 謙早, 北海道産貝類目録, p. 14, pl. 11, f. 76.

産地 ポンセイヨウハツ、夏路。

*Pecten (Patinopecten) healeyi tryblium*  
Yokoyama

1925. *Pecten tryblium* Yokoyama, *Jour. Fac. Sci. Imp.*

*Univ. Tokyo*, Vol. 1, p. 17, pl. 6, f. 12, pl. 7, f.

1, 5.

1931. *Pecten (Patinopecten) tryblium*, 黒田, 本間, 信濃中部地質誌, 第四篇, 第一節, p. 35, pl. 3, f. 11.

1932. *Pecten (Patinopecten) healeyi tryblium*, Kuroda *Venus*, Vol. 3, No. 2, App., p. 99.

模式的特徴は鉸線長く、右殻片の放射肋は縁部に於て兩裂し、右殻片は殆ど平らで、肋は鋭頂を呈する。然し此の特徴は個體により差異があつて純粹な品種としての存在を多くの學者から疑はれて居る。採集した標本は僅かであるが模式的なものでなく、左殻の放射肋の様子は *P. yessoensis* Jay に近く、肋の兩裂も後部に於て僅かに見られるだけであるが、右殻は殆ど平

らび、*P. yessoensis* Jay との中間型を示して居る。

*P. tryblitum* Yok. 及 *P. yamasakii* Yok. とを近似し、Grant 及び Gale の兩氏は或る疑を以て兩種を *P. healeyi* Arnold に合併し、黒田徳米氏は *P. tryblitum* Yok., *P. yamasakii* Yok. の兩種と *P. yessoensis* Jay との三者の區別に就き疑點を有して居られる。是等の種類を廻つて分類上の幾多の面白い問題が立てられて居るが、多くの材料に接して居ないので意見を述べることが控さる。

産地 夏路。

*Pecten (Patinopecten) plebejus* Yokoyama

1926. *Pecten plebejus* Yokoyama. Jour. Fac. Sci., Imp. Univ. Tokyo, Vol. 1, p. 305, pl. 36, f. 1, 2.

1932. *Pecten plebejus*, Kunoda, Venus, Vol. 3, No. 2, App., p. 101.

産地 ホンセイヨウミン。

*Epitonium (Acirsa) boreale ochotense*  
(Middendorff)

1851. *Scalaria ochotensis* Middendorff, Sibirische Reise, p. 213, pl. 12, f. 12-14.

1887. *Scalaria ochotensis*, Tryon, Man. Conch., Vol. 9, p. 76, pl. 15, f. 87.

1921. *Epitonium (Acirsa) borealis ochotensis*, Dall, U. S. Nat. Mus., Bull. 112, p. 113.

縦肋は不規則で低いが可なり厚く、僅かに傾き、肋間には微細な螺旋脈を有する。採集した標本は僅か二個で、共に螺旋頂部は破損し非常に磨滅して居る、其の中一個は七層を保存し五十二耗の高さを有し、他は四層で高さ四十一耗である。原記載に依ると模式標本も頂部は破損し、保存されて居る六層の高さは五十一耗で、完全な標本では九乃至十層で六十耗以上の高さを有するであらうとあるから、化石種の大さも模式に近いものである。現生種はベーリング海峽附近の北極洋、ベーリング海及びオホーツク海から知られて居る。

産地 ホンセイヨウミン。

前にも述べた通り個體數の割に種類は非常に少なく、特に巻貝は稀有である。ボンセイヨウメットと夏路の化石動物群は全く同じで、*Pododesmus* (*Monia*) *macrochisma* (*Deshayesi*), *Chlamys erythrocomata* (*Dall*), *Chlamys farperi akazara Kuroda* が非常に多く *Chlamys swiffii* (*Bernardi*) も少ない。貝化石の種類は少ないが、現生種は北海道、千島、樺太附近

に生存するもので夏路貝層の堆積當時の水温も略現在の此の附近のものに近似して居つたことが推定出来る。  
摺筆に當り種々御指導下さつた中村、横山、黒田の諸先生並に入雲に於て採集の際諸般の便宜と援助を惜まれなかつた北海道工業試験所の矢島澄策學士、北海道帝國大學の竹田秀藏學士及び徳川農場の方々に厚く感謝の意を表する。

## 街村についての研究

櫻井 静

### 目次

- 一、村落の形態的分類と街村の意義
- 二、線狀聚落の諸形態
  - ①武藏野に於ける片側村・兩側村
  - ②主要街村についての調査
- 三、街道と聚落形態との關係

街村についての研究

### 四、街村化について

- ①都市化と街村化
  - ②街村の特性
- 五、結 論

### 一、村落の形態的分類と街村の意義

村落の平面形態に關しては、萬國地理學會の